

北海道スポーツ少年団広報

—Quality of Life—

平成17年 5月発行

〒062-8572 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1
北海道立総合体育センター内
財団法人北海道体育協会
北海道スポーツ少年団本部長 島中 貞夫
TEL011-820-1707 FAX011-833-0705

広報紙の発刊に当たって

北海道スポーツ少年団広報普及部会 部会長 秋野 優

北海道スポーツ少年団は、各種事業や市町村少年団活動及びリーダー会活動等を少年団指導者を始め関係各位に紹介し、少年スポーツの普及振興に資することを目的に広報紙「Quality of Life」を発刊しています。

少子化による児童生徒数の減少等により北海道の団員数は若干減少いたしましたが、道内最大の青少年団体として54,534名の団員が様々な活動に取り組んでおります。

今回は、北海道スポーツ少年団の各種事業や派遣団員の体験記等を掲載いたしましたが、この広報誌がスポーツ少年団の普及と各種活動の啓蒙・啓発として、団員や指導者の確保、組織の拡充と登録の促進が図られるよう期待しております。

最後に、この広報紙を通して市町村の教育・文化・医療・福祉施設等あらゆる施設で、多くの道民がスポーツ少年団を身近に感じることができるよう関係各位の一層のご協力をお願い申し上げ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

北海道スポーツ少年大会の引率をして

士別クロスカントリースキー少年団指導者

上 川 学

北海道スポーツ少年大会に士別市の少年団員と上川管内の少年団員を引率することになり、少年団の行事には初めての参加でしたので、どのような活動をするのかなど興味と、ちょっとした不安と緊張を持ちながら参加しました。

初めのオリエンテーションでは、団員たちは緊張した面持ちでしたので、輪の中に上手く溶け込むことができるか少々心配していましたが、次の班活動ではリーダーを中心に会話も増え、楽しい雰囲気になっていったので、ホッとしました。

2日目の体験活動のボート・カヌー、化石堀では、担当者の説明に目を輝かせて話を聞き、実際に体験を始めると団員の笑顔や歓声があり、非常に楽しかったのではないかと思います。また、夕食のバーベキュー、ファイアーストーム、プレゼント交換は、最後の夜ということもあり盛り上がり、仲間の輪が一段と大きくなったと思います。

3日間の生活はあっというまでしたが、3日間とは思えないぐらいの仲間の輪ができたのではないのでしょうか。

それは、「もう少しみんなと一緒に色々な活動がしたい、なんか寂しいな。」という言葉に現れていました。また、様々なログラムを通した貴重な経験は今後の日常生活やスポーツ少年団活動の糧になり、さらに一段と大きく育つのではないかと思います。



団員の交流だけではなく、私にとっても今回のスポーツ少年大会に参加したことは、大きな経験になりました。様々な競技の指導者と交流することができ、今後少年団の指導をする上で、とても勉強になり、充実した生活を送ることができました。このような機会を与えていただきありがとうございました。



第42回全国スポーツ少年大会に参加して

「思い出に残った4泊5日」

上湧別バレーボールスポーツ少年団

今野瑞希（6年生）

飛行機に乗るのは、初めてで不安だったけど楽しかったです。

1日目は市内のホテルで1泊です。ホテルに着いて直ぐにお好み焼きを食べに行きました。口では表現できないほど美味しかったです。

2日目は、フェリーで江田島に向かい、411名が集まりました。その中にドイツ人もいました。開会式が終わり、最初の対抗戦、アカペラコンクールがあり、北海道チームは結果はともかく楽しく歌いました。

3日目はリレー、綱引き、9人10脚で優勝、他の競技は・・・。

4日目は社会活動として、原爆死没者慰霊式に参加しました。世界で初めての原子爆弾による被害を受け街はほとんど破壊され、多くの人たちの命が奪われたらしい。

広島での4泊5日間は、忘れられません。学んだことは、これから生かしたいと思っています。





「全国スポーツ少年大会に参加して」
上湧別バレーボールスポーツ少年団
石川知佳子6年生)

4泊5日は、私にとって見るもの、聞くもの全てが勉強の連続でした。参加できて特に良かったことは、友達作りのコツから挨拶の仕方や、お互いに信頼し合い助け合うことなど、とても大切なことを勉強しました。

北海道の団結力は素晴らしく、9人10脚の結果（優勝）にも現れたと思います。体験したことのない暑さ、課題提出のため夜中まで、勉強したこと、初めて気づいた平和の尊さ、また、電車の中でうたた寝しているとき、惣領さんが扇いでくれた風の気持ち良さに、感謝の気持ちが湧いてきました。

帰り際に、惣領さんと亜沙美ちゃんに「知佳、成長したね。」と言われたことが、何より私の自信になったような気がします。

参加にあたり、各方面の沢山の人に力を貸していただき、ありがとうございました。

「全国スポーツ少年大会の感想」

惣 領 智 人

自分自身、初の全国引率ということで、かなりの緊張の中、大会が開催された。

活動を通じて感じたことは、広島のリダーのがんばりをものすごく感じました。みんなきつと夜も寝ないで打ち合わせ等、頑張っていたのだと思います。ただ一つ気になったことは、年配のリダーが後輩のリダーへアドバイスする時の場所、そして言葉使いです。確かに、年配のリダーがみんなピリピリして大変なのがありますが、子供たちの前で「お前、それ違うぞ!」のような怒り口調や怒鳴り声がよく聞かれました。その場にいた子どもの達は雰囲気が悪くなるのは当然で、その後の行動にも多少影響があったのではと思われます。その他にも、各県の指導者に対する意見や反省して欲しい部分など多々ありますが、参加した団員には、とても貴重な体験、思い出ができたと思います。4日間大変お世話になりました。ありがとうございました。



「第1回北海道スポーツ少年団水泳交流大会を終えて」

紋別水泳連盟理事長（紋別水泳少年団ヘッドコーチ）

村 谷 護 国

9月19日（日）、紋別市健康プール「ステア」で開催された水泳交流大会は、道内各地から25チーム、332名の選手が参加し、父母の応援に後押しされた「ちびっ子スイマー」の力泳が続く中無事終了し、大きな成果を上げることができました。

今回参加した選手は初心者・中級者が多いことから、競技会の正式なルールを学ぶ良い機会になったと思います。また、全国レベルの素晴らしい泳ぎを間近に見ることによって、多くの選手が感動を得たと思います。全国レベルの選手となるには、日々の努力と向上心が必要なことは言うまでもありませんが、水泳を通じて心身の健全育成を図るためには、指導者が少年団活動の目的を見失わず、地道に取り組むことが原点になると思います。

大会の開催にあたっては、会場の確保、運営費の調達、役員数の確保、宿泊所の斡旋等の課題がありますが、将来的には、道内各地で持ち回り開催できればと期待しています。

終わりに関係各位のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。



第3 1 回日独スポーツ少年団同時交流

日独スポーツ交流に行って

清水町水泳スポーツ少年団 根 田 望

ベルリンでは私たちと同世代の青年がプログラムを組み、進行していた事に驚きました。最初の民泊では大きく立ちはだかる言葉の壁を前に片言の英語や辞書をひきひきのドイツ語、精一杯のジェスチャーで日に日に不安がなくなっていくような気がしました。

私がベルリンで心に残ったのは3つあります。

一つ目は1989年に崩壊したベルリンの壁を見た事です。壁を実際に見て以外と小さいのに驚きました。同じく国に住んでいるもの同士、なぜ仲良くできなかったのか不思議でたまりませんでした。



二つ目は消防署訪問です。12人限定で特別にはしご車に乗せてもらえるということなので気合いを入れてグループでジャンケン。何とも言えない素晴らしい風景はとても心に残りました。

三つ目は民泊です。何か会話をしたくても最初の一言が出ず、とてももどかしい気持ちで一杯でした。しかし、カードゲームやお互いの言葉の覚え合いなどをしているうちに、段々うちとけてくるのが分かりました。家族にはもちろん、その友達も優しく接してくれて、不安はなくなりました。その日から毎日が楽しく感じ、とても良い思い出になりました。



約3週間の帰国

誠心塾空手道 菅 原 康 人

約3週間ドイツで生活してきたけれど、ドイツと日本の文化が違いドイツ人に日本人のイヤな部分を見せたと思います。しかし、僕はそういうドイツや日本の文化や違いを乗り越え、またいつかドイツへ行きたいと思っています。ドイツは僕の第2の故郷です。僕たち日本人とドイツ人たちの友情をという輪には国境はないと思います。僕はまたホームステイした家に帰国したいと思います。



一生の宝物！

NNCA 細 野 真 麻

ドイツで良いなあと思ったのは、彼らのライフスタイルです。ドイツの人たちの生活は、日本にはない豊かさがありました。身近にあるスポーツ、休日にはピクニックへ出かけたりなどと家族で過ごす時間の考え方、そして、ドイツを包むゆっくりとした時間の流れ、どれもوراやましく思いました。こんな環境の中で育ってきたから、落ち着きや心のゆとり・優しさが彼らにあるように見張えたのだと思います。私たちにはもっと時間のゆとり、心の余裕が

必要ではないかと思いました。

たくさんのドイツ人と知り合い、ドイツ文化を直接肌で触れ、本当に最高の体験ができました。こんなにも充実した日々を送らせてくれた皆さんには心から感謝しています。ここで出会った日本の仲間たち、もちろんドイツのみんなとも一緒に学び得たことを活動に生かせるよう頑張っていきたいと思います。

今の私にできること

金 山 杏 奈

ドイツで初めてホームステイをし、言葉が通じないということが、どれだけ不安で大変なことなのかを知りました。それと同時に、距離を感じてしまっている自分がいました。でもその距離は、スポーツによって一気に縮まってきました。スポーツは、自然と私たちを笑顔にしてくれて、最高のコミュニケーションの取り方だと思います。

私は、ドイツで沢山のことを発見しました。ドイツの人たちのように、心の

底から楽しいと思えるスポーツをしたいと思いました。言葉の壁を乗り越えてドイツの人と仲良くなれた私は、もっともっと様々な日本人とも仲良くなれるはずです。それをスポーツが教えてくれました。良い成績や記録をとることだけがスポーツで求めることではありません。楽しむスポーツを自分自身していきたいし、スポーツ少年団はスポーツ以外のことも沢山学べるのだと、団員の人たちに教えてあげたいです。

「21世紀私たちに何ができるか？」

―若者の社会参加・意志決定/活動/共同責任―

ドイツでの学び **畠 中 朋 美**

ドイツでは、若者が活動する権利を与えてもらい、それに伴う責任も与えられているのだと思った。この構成図が今回の研修のテーマとすごく一致しました。そして、ドイツでの経験の数々が私に、ヒントを与えてくれたように思いました。

まず1つ目は、自分たち自らが行動を起こさないと何も変わらないということです。だから、失敗を恐れずに何事にも一生懸命することが大事だと思いました。

2つ目は、沢山の経験を積んでいくことです。こうすることにより、自分以外の人たちの考えなど、手本となることや自分を見つめ直す良い機会となり、考察し次にどのようにしていけばよいのかという思考回路ができると思います。

3つ目は、ドイツへ行って思ったのが、今までは井の中のかわずだったということです。そして、すごく感じたことが、今回のテーマである自分たちにできること、それは、自分自身を知ることであると思いました。今の国、少年団、自分を取り巻く環境がどのようになっており、どのように変化していつているのかを知っていくことが活動を何かしようということの基盤になると思いました。

テーマが論してくれたこと **竹 内 健太郎**

ドイツでは、スポーツ少年団内でも私たちと同じ世代にあたる若者の存在が重要な役割を担っていて、発言権や決定権などというものも大人と同じ高さの権限を持っています。「若い人たちが若い人たちのために」これが彼らの考え方でした。両国の問題とされている団員数の減少について、私たちにも気持ち一つで簡単にできる活動をたくさん見つけることができました。しかし、それを実行していないことに問題がありました。「私たちは、何ができるのだろうか。」と具体的な方法を考えると難しい問題ですが私は一つのことに気づいてからこのテーマが意図することがどんなことかがわかってきました。若者が地域や社会に干渉できるシステムや環境が整っているから社会参加できるということではなく、自分たちが住む地域や国をよりよくしていこう。「そのために」という行動が社会全体をそうさせていくのではないかと思います。問題は社会的システムではなく精神的な問題であると確信しました。私は彼らを見て自分がいかに地域や社会への関心が希薄かを思い知らされました。私たちにできることは地域や社会に住む一人としての自覚を大切に、少年団活動をはじめとする諸活動に積極的に取り組むことです。ドイツでの生活を通して私は自分が住む地域で自分にできる可能性を感じました。

事務局だより

子どもの居場所づくり新プラン「地域子ども教室推進事業」について

日本体育協会では子どもの居場所づくり運営協議会を立ち上げ、文部科学省が進めている「地域子ども教室推進事業」の委託を受け、今年度から子どもたちの様々な体験活動の拠点となる「地域子ども教室」をスタートしています。

各少年団もこの事業を活用して、団員がいつでも安心して活動のできる場所を提供して欲しいと思います。

この事業に関する問い合わせは、下記のところにお電話で！

(問い合わせ先) 財団法人 北海道体育協会 生涯・少年団スポーツ課 電話 011-820-1707

平成 16 年度北海道スポーツ少年団登録状況について

	市町村数	団数	団員数	指導者数	
				単位団	役職員
H 1 6	2 0 6	2 , 3 4 4	5 4 , 5 3 4	9 , 5 6 1	8 4 8
H 1 5	2 0 6	2 3 3 6	5 5 , 2 7 4	9 , 4 1 0	8 7 0
前年対比	0	8	△ 7 4 0	1 5 1	△ 2 2
全 国	2 , 6 6 5	3 5 , 6 0 3	9 3 3 , 6 4 4	1 9 2 , 0 4 4	1 9 , 4 0 6

平成 1 7 年度北海道スポーツ少年大会は根室管内根室市で
予定しております。是非、多くの皆さんが参加してくれるのを
待っています。

事務局員
生涯・少年団スポーツ課長 山口 淳一
主幹 鎌田 英樹
主事 横山 環
主事 近藤こずえ
担当 小谷 洋一
担当 工藤恵美子
が担当しております。よろしくお願いします。